科目区分	人間科学科専門教育科目						
科目名	衣生活論						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバー	H11010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2. 0
	衣生活学入門						
授業のテー	-マ						

学期	前期/1st	semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2. 0	
授業のテー	衣生活学入門マ	衣生活学入門							
授業の概要	── 服と社会との関 要 具体的に取り扱 服とユニバーサ	衣生活学の入門として位置づけ、人と被服、社会と被服という観点から衣生活をとらえ、幅広い内容を学ぶ。被服と社会との関連、被服自体のなりたち、被服が人の心と体に及ぼす影響について習得することを目標とする。 具体的に取り扱う内容は、被服の歴史と文化、被服の構成、被服の素材、染色、被服衛生、高齢者・障害者の被服とユニバーサルファッション、被服の管理と洗濯、被服の取扱いと表示、被服の廃棄とリサイクル等である。また、衣料管理士のしごとについても解説する。							
到達目標	▎ ┃・被服のなりた	を関係づけることからについて説明する。 身とを関係づけるこ	らことができん	る【知識・理解	翠】				
授業計画	第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第	第2回 被服の起源 第3回 被服の歴史と文化①和服の歴史 第4回 被服の歴史と文化②洋服の時代へ 第5回 被服の未来 機能性とデザイン 第6回 民族と衣生活 第7回 自然環境と被服 第8回 レポート課題のプレゼンテーション [PC必携] 第9回 ライフスタイルと被服① 衣生活の現状 第10回 これからの衣生活、グループディスカッション [PC必携] 第11回 ライフスタイルと被服② TPOとフォーマルウェア 第12回 ライフスタイルと被服② ライフサイクルから見た衣服設計 第13回 衣服の取扱いと表示 第14回 被服の廃棄とリサイクル							
授業外におけ 学習(準備等 の内容・時間	する 授業後学習:授 学習	キストの該当箇所を 業で取り上げた内容	≧読んで予習 雰の要点と重	しておく(605 要箇所をまと&	介) カプリントで	確認する。(120分)		
授業方法	講義、動画視聴 BYOD対象科目	等を含む。							
評価基準 為 評価方法	上 □ 平常点は、各回	験とレポート課題 提出の小課題の内容		確さ等を評価で	する。				
履修上の注	出席を重視する ほとんどすべて 意	。 の授業回でmanabaを	を使用するため	め、PCの携行る	を推奨する。				
教科書	『生活科学テキ	-ストシリーズ 衣生	活学』佐々	井 啓・大塚美	智子 編著(朝倉書店)「SI	BN 978-4-25	4-60633-1	
参考書	随時紹介する。								

科目区分 人間科学科専門教育科目 科目名 基礎演習A 稲見 直子 H0106A 担当数員 科目ナンバー 学期 前期/1st semester 曜日・時限 木曜3 配当学年 1 単位数 2.0 本演習は、人間科学科の1年生が大学で学ぶことの意義を自覚し、 高校と異なる授業への円滑な移行と、新た に学ぶ「人間科学」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとする。 授業のテーマ 本演習は、人間科学科の1年生が大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「人間科学」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的とする。内容は、図書館における資料収集の方法、コンピュータを用いた資料収集の方法、フィールドワークを通したデータの収集、レポートの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術の修得である。これによって、本学科へのより高い関心を促し、 授業の概要 自分の進路までを視野に入れながら、本学科で学ぶための意欲や基礎力を養っていく。 (1) 図書館やインターネットなどを活用して、課題やテーマに関連した情報を収集することができる。【汎用的 技能】 (2) 学科での学びの基礎となるレポート作成およびプレゼンテーション技法の基本的なスキルを身につける 到達目標 【汎用的技能】 フィールドワー -クに主体的に取り組むことができる。【態度・志向性】 オリエンテーション ※PC必携 大学での学び方、キャンパス探検 図書館オリエンテーション 第1回 第2回 第3回 第4回 文献資料の読み方 引用・参考文献の書き方/研究倫理について ※PC必携 第5回 リポートの書き方I(資料収集と検索方法の具体)※PC必携レポートの書き方I(レポートの論理構造)※PC必携レポートの書き方II(レポートの結論)※PC必携レポートの書き方II(レポートの結論)※PC必携 第6回 第7回 第8回 授業計画 レポートの書き方IV(レポートの修正)※PC必携フィールドワークの計画 ※PC必携フィールドワークの実施 第9回 第10回 第11回 プィール・アーションの仕方 ※PC必携 プレゼンテーションの仕方 ※PC必携 パワーポイントの作成 ※PC必携 プレゼンテーション 第12回 第13回 第14回 夏休みの課題説明と基礎演習Aの総括 第15回 授業前準備学習:授業によって出される課題(例:資料収集、フィールドワーク準備、プレゼンテーション準備など)を次の講義まで行う。<2時間> 授業後学習:個々の課題に応じた補充的学習(例:資料の要点をまとめる、PCの操作復習など)を推奨する。< 授業外における 学習(準備学習 の内容・時間) 2時間> ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションなどにより、各回設定のテーマについて演習を行う。<BYOD対象科目> 授業方法 ・受講姿勢・態度 (40%): 授業内で出された課題に対して主体的に取り組んでいるか、学びに向かう主体的な姿勢や他者と協働して学ぼうとする態度が築けているかなどを総合的に評価。到達目標(1)の確認。・レポート(30%): 論理的かつ分析的に書けているか、決められた形式で書けているかなどを総合的に評価。到 評価基準と 達目標(1)(2)の確認。 ・プレゼンテーション(30%):フィールドワークで収集したデータや報告態度・内容などを総合的に評価。到 評価方法 達目標(2)(3)の確認。 ※評価基準(評価ルーブリック)は、共通資料に掲載するので、各自取り組みの参考にされたい。 ※出席及び授業への参加態度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 履修上の注意 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 ・学外でのフィールドワークに伴う交通費や入場料が必要な場合がある。 学科共通資料を配付する。また必要に応じて授業毎にプリントを配付する。 教科書 適宜指示する。 参考書

科目区分 人間科学科専門教育科目 科目名 基礎演習A 奥井 一幾 H0106A 担当数員 科目ナンバー 学期 前期/1st semester 曜日・時限 木曜3 配当学年 1 単位数 2.0 本演習は、人間科学科の1年生が大学で学ぶことの意義を自覚し、 高校と異なる授業への円滑な移行と、新た に学ぶ「人間科学」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとする。 授業のテーマ 本演習は、人間科学科の1年生が大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「人間科学」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的とする。内容は、図書館における資料収集の方法、コンピュータを用いた資料収集の方法、フィールドワークを通したデータの収集、レポートの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術の修得である。これによって、本学科へのより高い関心を促し、 授業の概要 自分の進路までを視野に入れながら、本学科で学ぶための意欲や基礎力を養っていく。 (1) 図書館やインターネットなどを活用して、課題やテーマに関連した情報を収集することができる。【汎用的 技能】 (2) 学科での学びの基礎となるレポート作成およびプレゼンテーション技法の基本的なスキルを身につける 到達目標 【汎用的技能】 フィールドワー -クに主体的に取り組むことができる。【態度・志向性】 オリエンテーション ※PC必携 大学での学び方、キャンパス探検 図書館オリエンテーション 第1回 第2回 第3回 第4回 文献資料の読み方 引用・参考文献の書き方/研究倫理について ※PC必携 第5回 リポートの書き方I(資料収集と検索方法の具体)※PC必携レポートの書き方I(レポートの論理構造)※PC必携レポートの書き方II(レポートの結論)※PC必携レポートの書き方II(レポートの結論)※PC必携 第6回 第7回 第8回 授業計画 レポートの書き方IV(レポートの修正)※PC必携フィールドワークの計画 ※PC必携フィールドワークの実施 第9回 第10回 第11回 プィール・アーションの仕方 ※PC必携 プレゼンテーションの仕方 ※PC必携 パワーポイントの作成 ※PC必携 プレゼンテーション 第12回 第13回 第14回 夏休みの課題説明と基礎演習Aの総括 第15回 授業前準備学習:授業によって出される課題(例:資料収集、フィールドワーク準備、プレゼンテーション準備など)を次の講義まで行う。<2時間> 授業後学習:個々の課題に応じた補充的学習(例:資料の要点をまとめる、PCの操作復習など)を推奨する。< 授業外における 学習(準備学習 の内容・時間) 2時間> ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションなどにより、各回設定のテーマについて演習を行う。<BYOD対象科目> 授業方法 ・受講姿勢・態度 (40%): 授業内で出された課題に対して主体的に取り組んでいるか、学びに向かう主体的な姿勢や他者と協働して学ぼうとする態度が築けているかなどを総合的に評価。到達目標(1)の確認。・レポート(30%): 論理的かつ分析的に書けているか、決められた形式で書けているかなどを総合的に評価。到 評価基準と 達目標(1)(2)の確認。 ・プレゼンテーション(30%):フィールドワークで収集したデータや報告態度・内容などを総合的に評価。到 評価方法 達目標(2)(3)の確認。 ※評価基準(評価ルーブリック)は、共通資料に掲載するので、各自取り組みの参考にされたい。 ※出席及び授業への参加態度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 履修上の注意 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 ・学外でのフィールドワークに伴う交通費や入場料が必要な場合がある。 学科共通資料を配付する。また必要に応じて授業毎にプリントを配付する。 教科書 適宜指示する。 参考書

科目区分 人間科学科専門教育科目 科目名 基礎演習A H0106A 担当数員 富田 因則 科目ナンバー 学期 前期/1st semester 曜日・時限 木曜3 配当学年 1 単位数 2.0 本演習は、人間科学科の1年生が大学で学ぶことの意義を自覚し、 高校と異なる授業への円滑な移行と、新た に学ぶ「人間科学」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとする。 授業のテーマ 本演習は、人間科学科の1年生が大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「人間科学」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的とする。内容は、図書館における資料収集の方法、コンピュータを用いた資料収集の方法、フィールドワークを通したデータの収集、レポートの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術の修得である。これによって、本学科へのより高い関心を促し、 授業の概要 自分の進路までを視野に入れながら、本学科で学ぶための意欲や基礎力を養っていく。 (1) 図書館やインターネットなどを活用して、課題やテーマに関連した情報を収集することができる。【汎用的 技能】 (2) 学科での学びの基礎となるレポート作成およびプレゼンテーション技法の基本的なスキルを身につける 到達目標 【汎用的技能】 フィールドワー -クに主体的に取り組むことができる。【態度・志向性】 オリエンテーション ※PC必携 大学での学び方、キャンパス探検 図書館オリエンテーション 第1回 第2回 第3回 第4回 文献資料の読み方 引用・参考文献の書き方/研究倫理について ※PC必携 第5回 リポートの書き方I(資料収集と検索方法の具体)※PC必携レポートの書き方I(レポートの論理構造)※PC必携レポートの書き方II(レポートの結論)※PC必携レポートの書き方II(レポートの結論)※PC必携 第6回 第7回 第8回 授業計画 レポートの書き方IV(レポートの修正)※PC必携フィールドワークの計画 ※PC必携フィールドワークの実施 第9回 第10回 第11回 プィール・アーションの仕方 ※PC必携 プレゼンテーションの仕方 ※PC必携 パワーポイントの作成 ※PC必携 プレゼンテーション 第12回 第13回 第14回 夏休みの課題説明と基礎演習Aの総括 第15回 授業前準備学習:授業によって出される課題(例:資料収集、フィールドワーク準備、プレゼンテーション準備など)を次の講義まで行う。<2時間> 授業後学習:個々の課題に応じた補充的学習(例:資料の要点をまとめる、PCの操作復習など)を推奨する。< 授業外における 学習(準備学習 の内容・時間) 2時間> ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションなどにより、各回設定のテーマについて演習を行う。<BYOD対象科目> 授業方法 ・受講姿勢・態度 (40%): 授業内で出された課題に対して主体的に取り組んでいるか、学びに向かう主体的な姿勢や他者と協働して学ぼうとする態度が築けているかなどを総合的に評価。到達目標(1)の確認。・レポート(30%): 論理的かつ分析的に書けているか、決められた形式で書けているかなどを総合的に評価。到 評価基準と 達目標(1)(2)の確認。 ・プレゼンテーション(30%):フィールドワークで収集したデータや報告態度・内容などを総合的に評価。到 評価方法 達目標(2)(3)の確認。 ※評価基準(評価ルーブリック)は、共通資料に掲載するので、各自取り組みの参考にされたい。 ※出席及び授業への参加態度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 履修上の注意 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 ・学外でのフィールドワークに伴う交通費や入場料が必要な場合がある。 学科共通資料を配付する。また必要に応じて授業毎にプリントを配付する。 教科書 適宜指示する。 参考書

科日区分	人间科字科导门教育科日				
科目名	基礎演習B				
担当教員	稲見 直子 科目ナンバー H0106B				
学期	後期/2nd semester 曜日·時限 木曜3 配当学年 1 単位数 2.0				
授業のテー	2年次のコース選択に向けて今後の学びの発展について探究学習を行う。 マ				
授業の概要	人間科学科では、2年次から各自の関心分野に基づいてコース別に学びを深めるため、本演習では自らの学びの関心をみつけるとともに、各コースでどのような学びができるのかを探究する。これによって、各コースの基礎知識を身に付けるだけでなく、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科で学ぶための意欲や基礎力を養っていく。				
到達目標	(1) 自らの学びの関心を見つけ、その分野の理解を深める。【知識・理解】 (2) 自らの学びの関心分野について自身の考えをもち、他者にわかりやすく説明することができる。【汎用的技能】 (3) 他者と協働かつ主体的な姿勢で授業に参加することができる。【態度・志向性】				
授業計画	第1回 夏休みの課題報告 第2回 自らの学びの関心を考える/調査倫理について ※PC必携 第3回 グループワーク I (関心分野の資料収集) ※PC必携 第4回 グループワーク II (関心分野の理解) ※PC必携 第5回 グループワーク II (調べたことを整理) ※PC必携 第6回 グループワーク II (調べたことをまとめる) ※PC必携 第7回 中間報告と質疑応答 第8回 グループワーク II (小ワーポイントの機能とスライドの構想) ※PC必携 第9回 グループワーク II (パワーポイントの機能とスライドの構想) ※PC必携 第10回 グループワーク II (スライドの編集) ※PC必携 第11回 グループワーク IV (スライドの編集) ※PC必携 第13回 プレゼンテーション II (1stグループ) ※PC必携 第13回 プレゼンテーション II (2ndグループ) ※PC必携 第14回 プレゼンテーション II (3rdグループ) ※PC必携 第15回 次年度の学びへ向けて				
授業外におり 学習(準備等 の内容・時間	学習 事後学習:個々の課題に応じた補充的学習(例:資料の要点をまとめる、PCの操作復習など)を推奨する。<2				
授業方法	ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどにより、各回設定のテーマについて 演習を行う。 <byod対象科目></byod対象科目>				
評価基準。 評価方法	・受講姿勢・態度(40%):授業内で出された課題に対して主体的に取り組んでいるか、学びに向かう主体的な姿勢や他者と協働して学ぼうとする態度が築けているかなどを総合的に評価。到達目標(1)(3)の確認。・プレゼンテーション(60%):プレゼンテーションに用いたデータや資料、プレゼンテーションの態度・内容などを総合的に評価。到達目標(2)(3)に対応。 ※評価基準(評価ルーブリック)は、共通資料に掲載するので、各自取り組みの参考にされたい。				
履修上の注	※出席及び授業への参加態度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。				
教科書	学科共通資料を配付する。また必要に応じて授業毎にプリントを配付する。				
参考書	適宜指示する。				

 科目区分
 人間科学科専門教育科目

 科目名
 基礎演習B

奥井 一幾 H0106B 担当数員 科目ナンバー 学期 後期/2nd semester 曜日・時限 木曜3 配当学年 1 単位数 2.0 2年次のコース選択に向けて今後の学びの発展について探究学習を行う。 授業のテーマ 人間科学科では、2年次から各自の関心分野に基づいてコース別に学びを深めるため、本演習では自らの学びの関心をみつけるとともに、各コースでどのような学びができるのかを探究する。これによって、各コースの基礎知識を身に合かるだけでなく、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科で 授業の概要 学ぶための意欲や基礎力を養っていく。 (1) 自らの学びの関心を見つけ、その分野の理解を深める。【知識・理解】 (2) 自らの学びの関心分野について自身の考えをもち、他者にわかりやすく説明することができる。【汎用的技 到達日標 能】 (3) 他者と協働かつ主体的な姿勢で授業に参加することができる。【態度・志向性】 夏休みの課題報告 第1回 をProvok は Nation は Provide は Prov 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 中間報告と質疑応答 第7回 中間報古と真矮心合 グループワークI(中間報告のフィードバックとテーマ設定)※PC必携 グループワークII(パワーポイントの機能とスライドの構想)※PC必携 グループワークII(スライドの編集)※PC必携 グループワークIV(スライドの仕上げ)※PC必携 プレゼンテーションII(1stグループ)※PC必携 プレゼンテーションII(2ndグループ)※PC必携 プレゼンテーションII(3rdグループ)※PC必携 授業計画 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 次年度の学びへ向けて 第15回 事前学習:授業によって出される課題(例:資料収集、プレゼンテーション準備など)を次の講義まで行う。< 授業外における 2時間> 学習(準備学習 事後学習:個々の課題に応じた補充的学習(例:資料の要点をまとめる、PCの操作復習など)を推奨する。<2 の内容・時間) 時間> ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどにより、各回設定のテーマについて 演習を行う。<BYOD対象科目> 授業方法 ・受講姿勢・態度(40%):授業内で出された課題に対して主体的に取り組んでいるか、学びに向かう主体的な姿 ・受講安野・悠及(40%):授業内で田された誘題に対して工作的に取り組んでいるが、子のに関がフエアのなる 勢や他者と協働して学ぼうとする態度が築けているかなどを総合的に評価。到達目標(1)(3)の確認。 ・プレゼンテーション(60%):プレゼンテーションに用いたデータや資料、プレゼンテーションの態度・内容 などを総合的に評価。到達目標(2)(3)に対応。 ※評価基準(評価ルーブリック)は、共通資料に掲載するので、各自取り組みの参考にされたい。 評価基準と 評価方法 ※出席及び授業への参加態度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 履修上の注意 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 学科共通資料を配付する。また必要に応じて授業毎にプリントを配付する。 教科書 適宜指示する。 参考書

 科目区分
 人間科学科専門教育科目

 科目名
 基礎演習B

 科目名
 基礎演習B

 担当教員
 富田 因則
 科目ナンバー H0106B

 学期
 後期/2nd semester
 曜日・時限 木曜3 配当学年 1 単位数 2.0

2年次のコース選択に向けて今後の学びの発展について探究学習を行う。 授業のテーマ 人間科学科では、2年次から各自の関心分野に基づいてコース別に学びを深めるため、本演習では自らの学びの関心をみつけるとともに、各コースでどのような学びができるのかを探究する。これによって、各コースの基礎知識を身に合かるだけでなく、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科で 授業の概要 学ぶための意欲や基礎力を養っていく。 (1) 自らの学びの関心を見つけ、その分野の理解を深める。【知識・理解】 (2) 自らの学びの関心分野について自身の考えをもち、他者にわかりやすく説明することができる。【汎用的技 到達日標 能】 (3) 他者と協働かつ主体的な姿勢で授業に参加することができる。【態度・志向性】 夏休みの課題報告 第1回 をProvok は Nation は Provide は Prov 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 中間報告と質疑応答 第7回 中間報古と真矮心合 グループワークI(中間報告のフィードバックとテーマ設定)※PC必携 グループワークII(パワーポイントの機能とスライドの構想)※PC必携 グループワークII(スライドの編集)※PC必携 グループワークIV(スライドの仕上げ)※PC必携 プレゼンテーションII(1stグループ)※PC必携 プレゼンテーションII(2ndグループ)※PC必携 プレゼンテーションII(3rdグループ)※PC必携 授業計画 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 次年度の学びへ向けて 第15回 事前学習:授業によって出される課題(例:資料収集、プレゼンテーション準備など)を次の講義まで行う。< 授業外における 2時間> 学習(準備学習 事後学習:個々の課題に応じた補充的学習(例:資料の要点をまとめる、PCの操作復習など)を推奨する。<2 の内容・時間) 時間> ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどにより、各回設定のテーマについて 演習を行う。<BYOD対象科目> 授業方法 ・受講姿勢・態度(40%):授業内で出された課題に対して主体的に取り組んでいるか、学びに向かう主体的な姿 ・受講安野・悠及(40%):授業内で田された誘題に対して工作的に取り組んでいるが、子のに関がフエアのなる 勢や他者と協働して学ぼうとする態度が築けているかなどを総合的に評価。到達目標(1)(3)の確認。 ・プレゼンテーション(60%):プレゼンテーションに用いたデータや資料、プレゼンテーションの態度・内容 などを総合的に評価。到達目標(2)(3)に対応。 ※評価基準(評価ルーブリック)は、共通資料に掲載するので、各自取り組みの参考にされたい。 評価基準と 評価方法 ※出席及び授業への参加態度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 履修上の注意 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 学科共通資料を配付する。また必要に応じて授業毎にプリントを配付する。 教科書 適宜指示する。 参考書

随時紹介する。

参考書

_ _ _

科目区分	人間科学科専門教育科目				
科目名	経営学概論/経営学基礎演習				
担当教員	今井 佐知子 科目ナンバー H11140				
学期	後期/2nd semester 曜日·時限 水曜3 配当学年 1 単位数 2.0				
授業のテー	経営学全般の初歩学習。				
授業の概要	経営学は、営利企業に限らず、官公庁・教育機関などの多様な組織における複雑な活動・現象を理解してゆくための考え方を提供しているということを学習します。				
到達目標	経営学全般について学ぶことにより、受講生が、今後、さらに詳しく学習したいと思う分野を選択することができるレベルに到達することを目標とします。【知識・理解】				
授業計画	毎回教科書を必帯 第1回 企業経営の全体像 第3回 企業と会社 第4回 企業とインプット(金融資本・労働)市場との関わり 第5回 企業とアウトプット(製品・サービス)市場との関わり 第6回 競争戦略のマネジメント1 第7回 競争戦略のマネジメント2 第8回 多角化戦略のマネジメント 第9回 国際化のマネジメント 第10回 マクロ組織のマネジメント 第11回 ミクロ組織のマネジメント 第11回 ミクロ組織のマネジメント 第12回 キャリアデザイン 第13回 経営学の広がり1 第14回 経営学の広がり2 第15回 授業の振り返り				
授業外におけ 学習(準備学 の内容・時間	27 パーストの前には、それまでの学習節囲全体の復習を各自で行う。				
授業方法	講義形式〈BYDO対象科目〉 受講者間の意見交換を行います。				
評価基準と 評価方法	授業への積極的参加と提出物 (50%) 授業の後半で小テストを実施し、目標到達度を確認 (50%)				
履修上の注	講義全体の3分の2の出席が確保できない場合、受講資格を失う。 意				
教科書	加護野忠雄・吉村典久 編著(2021)『1からの経営学』 第3版(碩学舎)、ISBN:978-4-502-37521-7				

随時紹介する。

参考書

_ _ _

	-					
科目区分	人間科学科専門教育科目					
科目名	経営学概論/経営学基礎演習					
担当教員	今井 佐知子 科目ナンバ- H11140					
学期	後期/2nd semester 曜日·時限 水曜4 配当学年 1 単位数 2.0					
授業のテー	経営学全般の初歩学習。マ					
授業の概要	経営学は、営利企業に限らず、官公庁・教育機関などの多様な組織における複雑な活動・現象を理解してゆくための考え方を提供しているということを学習します。					
到達目標	経営学全般について学ぶことにより、受講生が、今後、さらに詳しく学習したいと思う分野を選択することができるレベルに到達することを目標とします。【知識・理解】					
授業計画	毎回教科書を必帯 第1回 企業経営の全体像 第2回 経営学の全体像 第3回 企業と会社 第4回 企業とインプット(金融資本・労働)市場との関わり 第5回 企業とアウトプット(製品・サービス)市場との関わり 第6回 競争戦略のマネジメント1 第7回 競争戦略のマネジメント 2 第8回 多角化戦略のマネジメント 第9回 国際化のマネジメント 第10回 マクロ組織のマネジメント 第11回 ミクロ組織のマネジメント 第11回 ミクロ組織のマネジメント 第11回 ミクロ組織のマネジメント 第11回 ミクロ組織のマネジメント 第11回 ミクロ組織のマネジメント 第11回 ミクロ組織のマネジメント 第11回 経営学の広がり1 第14回 経営学の広がり1					
授業外におけ 学習(準備学 の内容・時間	学習「ハテストの前には、それまでの学習節囲全体の復習を各自で行う。					
授業方法	講義形式〈BYDO対象科目〉 受講者間の意見交換を行います。					
評価基準と 評価方法	授業への積極的参加と提出物 (50%) 授業の後半で小テストを実施し、目標到達度を確認 (50%)					
履修上の注	講義全体の3分の2の出席が確保できない場合、受講資格を失う。					
教科書	加護野忠雄・吉村典久 編著(2021)『1からの経営学』 第3版(碩学舎)、ISBN: 978-4-502-37521-7					

 科目区分
 人間科学科専門教育科目

 科目名
 社会調査論

 担当教員
 稲見 直子

 科目ナンバー
 H21060

学期	後期/2nd	semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2. 0
授業のテー		頁や技法を学び、実 際	祭の調査がで う	きるようになる	るための基礎	的事項を修得	する。	
授業の概要	□ 地調査の実施力 ^関 するほか、社会	頁や技法を学び、実際 万法、データの収集と 試調査における調査値 対として社会調査の意	≤分析、報告₹ 倫理について ³	書の作成までの 理解をはかる。	ワー連の流れ	を量的・質的	調査の双方に	:ついて解説
到達目標	(2)社会調査の	基礎的な理論や技法 データを読み解くこ 会調査を実施するこ	とができる。	【知識・理解]	ことができる。	【知識・理算	解】
授業計画	第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第	データの利用(1) 2 データの利用(2) 2 の種類と実例(1) 世 の種類と実例(2) マ の種類と実例(3) 観 の種類と実例(4) ト	t論調査 アーケティング 現察法 ドキュメントグ ī接法	か解き② ※P グ調査(ゲス I 分析)		
授業外におり 学習(準備等 の内容・時間	する┃みる。<2時間 学習┃授業後学習:キ	習:広告や新聞記事な > 受業で学んだ専門用語						性を疑って
授業方法	│なども取り入れ	ジ式をとるが、manab l、学生の主体的参加	aでの小テス □を促す。 <e< th=""><th>ト実施、既存 3YOD対象科目)</th><th>データの読み ></th><th>解き、フィー</th><th>ルドワークの</th><th>実施</th></e<>	ト実施、既存 3YOD対象科目)	データの読み >	解き、フィー	ルドワークの	実施
評価基準 為 評価方法	レ ┃・レポート(3 ̄ ┃が正確に行わ∤	0%):社会調査に関 0%) :公的統計やフ いているかなどを総合 (40%) :社会調査に	ィールドワー 的に評価。	-クのデータ収 到達目標(2)(3	集がきちんと)に対応。	と行われている		の読み解き
履修上の注	│ ・学外でフィー 意 │ ・社会調査士を	≧体の3分の2に満たた ールドワークを実施す ・将来的に目指すこと 整調査Ⅰ)」「質的記	けるので、交 とを目的とし	通費や入館料が ているので、こ	が発生するこ この科目を受	講した学生は	引き続き「社 望ましい。	:会調査法(
教科書	適宜レジメと資	賢料を配布する。						
参考書	大谷信介・木T 篠原清夫・清オ	▽栄二他編,2013,『 ベ強志・榎本環・大屋	新・社会調査 屋根淳,2010,	へのアプロー 『社会調査の	チ——理論 & 基礎——社会	と方法』ミネル 会調査士A・B・	√ヴァ書房. C・D科目対	芯』弘文堂.

- - -

科目区分	人間科学科専門教育科目					
科目名	生涯発達論					
担当教員	加納 真美				科目ナンバー	H11040
学期	後期/2nd semester 曜日	・時限 木曜2	配当学年	1	単位数	2. 0
授業のテー	発達段階をとおしたヒトの身体の仕組み マ	と心理社会的成長を「	中心に考察する。			
授業の概	理的発達、成人し抱える心理的語話題、 階をとおして獲得していく生理的変化、: 考える目を養う。	脳や感覚器官の発達、 自らが親になる際の母身体の構造や心理社会	認知機能の心理 母性や父性の出現 会的スキルを知る	!生理的発達 !と役割、こ 。常に成:	達と脳の変化、 このように発う 長する人間を生	・社会性の 達段 生物として
到達目標	1. ヒトの遺伝、脳のはたらき、発達に 2. 発達段階における心理社会的スキル 3. 遺伝、発達における行動の事例を挙 [態度・志向性]	を行動面と機能面から	ら解説することが	『できる。[[知識・理解]	
授業計画	5. 遺伝と環境について② チンパンジ・6. 記憶のしくみについて 7. 記憶の障害について 8. 高次脳機能障害について 9. 愛着について① 受着形成のパター: 10. 愛着について② 児童期以降の愛着 11. 性と性役割について 12. LGBTQと性スペクトラムについて 13. 発達障害について① 種類と症状に	 3. 新生児、乳児について。出生前診断について 4. 遺伝と環境について① 相関について、双生児研究 5. 遺伝と環境について② チンパンジー研究 6. 記憶のじくみについて 7. 記憶の障害について 8. 高次脳機能障害について 9. 愛着について② 児童期以降の愛着について、虐待の問題 11. 性と性役割について 12. LGBTQと性スペクトラムについて 13. 発達障害について② 対処方法、社会の取り組みについて 				
授業外におり 学習(準備: の内容・時間	[†] る│授業後学習:授業で指定された課題につ 学習│	授業前学習:授業で指示する資料を収集し、まとめる。(学習時間:2時間) 授業後学習:授業で指定された課題についてレポートの作成(学習時間:2時間)				
授業方法		講義形式で授業を実施する。進度に応じて、ミニレポートと授業内での発表を行う				
評価基準 評価方法	評価する。到達目標2,3に関する到達度のレポート(50%):授業で扱った内容に関すに関する到達度の確認するために、2つ確認テスト: (20%):確認のためのテス	ハレポート(30%):授業中に視聴した資料のまとめや実験・演習のまとめと、それに対する自分の考えについて評価する。到達目標2,3に関する到達度の確認。 レポート(50%):授業で扱った内容に関する理解度とそれを生活に応用する力について評価する。到達目標1,2,3 に関する到達度の確認するために、2つ~3つのテーマに沿ったレポートを提出すること。 確認テスト: (20%):確認のためのテストを授業内に行なう				
履修上の注		3分の2以上の出席が必須である。授業中、私語、電子機器の操作を禁止する。				
教科書	なし。プリントを適宜用いる。	なし。プリントを適宜用いる。				
参考書	「生涯発達心理学」 金子書房、ISBN:4「アタッチメント」 ミネルヴァ書房、	4-7608-9211-7 ISBN:4-623-04107-7				

科目区分 人間科学科専門教育科目 科目名 食生活論 川口 真規子 H11020 担当数員 科目ナンバー 学期 前期/1st semester 曜日・時限 木曜2 配当学年 1 単位数 2.0 健康な生活を送るための食生活について、様々な観点から解説する。健康とは何か、そして健康のために食生活はどうあるべきかを考えられるようになることを目標とする。 授業のテーマ 『食』を食生活と健康づくりの観点から解説する。本講義は、2年次生以降、食の学びを深めるために基盤となる科目として位置付ける。まず、「食生活と栄養(5大栄養素とその他の成分)」について、化学的・生化学的視点から概説する。 授業の概要 次に「食品の機能」、「食生活と調理」、「食生活と食文化」、「食生活と環境」などについて解説する。 1)5大栄養素についての基本的な内容を説明できる。【知識・理解】 2) 食生活、調理、食文化についての基本的な内容を説明できる。【知識 3) 食生活と健康についての基本的な問題に答えられる。【知識・理解】 【知識・理解】 到達目標 はじめに ~人の一生と食事~ 私たちの食生活と健康 第1回 食生活と栄養(炭水化物)食生活と栄養(タンパク質①) 第2回 第3回 食生活と栄養(タンパク質②) 第4回 第5回 食生活と栄養(脂質) 食生活と栄養(ビタミンとミネラル①) 食生活と栄養(ビタミンとミネラル②)【PC必携】 おいしさと健康のための調理 食品の機能 【PC必携】 食生活と食文化【PC必携】 第6回 第7回 第8回 授業計画 第9回 ライフサイクルと食生活(妊娠期・授乳期) ライフサイクルと食生活(乳児期・幼児期) ライフサイクルと食生活(乳児期・幼児期) ライフサイクルと食生活(学童期・思春期・成人期) ライフサイクルと食生活(高齢期)健康づくりと食生活 食育の意義 食生活と環境 【PC必携】 まとめと期末テスト 第10回 第11回 第12回 第13回 【PC必携】 第14回 第15回 授業前:授業計画に従って教科書の該当するところをあらかじめ読んでおく。 調査学習の課題についてグループでディスカッションを行いプレゼンの準備をする。 授業外における 学習(準備学習 (学習時間:2時間) 授業後:配布プリント使い学習内容をノートにまとめる。(学習時間:2時間) の内容・時間) 《BYOD対象科目》 講義 授業方法 ただし、「食生活と食文化」の授業時にはグループワークおよびプレゼンテーションを行う。 授業における発表(10%):プレゼンテーション時における積極性・協調性・発表技術で評価する。 到達目標2)の到達度の確認。 評価基準と 課題(40%):授業内外での課題提出物の内容で評価する。到達目標1)に関する到達度の確認。 期末テスト(50%):学習内容全般に対する理解度で評価する。到達目標1)2)3)に関する到達度の確認。 評価方法 内容が多岐に渡りますので授業後の自主学習が必須です。積極的に学ぶ姿勢が必要です。 履修上の注意 大学で学ぶ食生活と健康のきほん 吉澤みな子・武智多与理・百木和 著 化学同人 ISBN 978-4-7598-1828-4 適宜プリントを配布 教科書 特になし 参考書

 科目区分
 人間科学科専門教育科目

 科目名
 住生活論

 担当教員
 稲見 直子

 科目ナンバー
 H11030

担当教員	相先 直丁	14 H) // -	1111030
学期	後期/2nd semester 曜日・時限 水曜3 配当学年 1	単位数	2. 0
授業のテー	住まいに関する基礎的知識を修得するほか、現代の住まいが抱える課題の発見とその解マ	決策を提案す	⁻ る。
授業の概要	私たちの生活に欠かせない住まいに関して、その基本的な知識の修得だけでなく、現代 理解し、よりよい住生活を営むための解決策を考える。	の住まいが抱	える課題を
到達目標	(1) 住まいに関する基礎的知識を修得することができる。【知識・理解】 (2) 快適な住空間や安全な住空間を創造することができる。【知識・理解】 (3) 住まいをめぐる課題を自ら発見し解決策を提案することができる。【汎用的技能】		
授業計画	第1回 住まいと人権 第2回 日本の住まい 第3回 海外の住まい 第4回 ライフステージと住まい 第5回 住まいと間取り 第6回 間取り図の作成 第7回 住まいとと関連・安全 第8回 住まいとと資本 第9回 日本の住宅政策 第11回 日本活と費用 第12回 空き家問題 第13回 住まいとまちづくり 第14回 さまざまな集合住宅 第15回 振り返りと期末テスト		
授業外におり 学習(準備なの内容・時間の内容・時間の内容・時間の内容・時間の内容・時間の内容・時間の内容・時間の内容・時間の内容・時間の内容・時間の内容・時間の内容・時間の内容・時間の内容・対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対		。<2時間>	
授業方法	基本的に講義形式をとるが、授業内ではワークシートの記入やグループディスカッショの主体的な参加を促す。	ンなども取り	入れ、学生
評価基準 評価方法		内に書けてい	るかなどを
履修上の注	・出席回数が全体の3分の2に満たない者は原則単位認定は行わない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とする。 ・授業中のスマホ操作・私語・居眠り禁止。注意しても改善されない場合は減点対象と	する。	
教科書	授業内容に応じて、適宜レジメと資料を配布する。		
参考書	後藤久監修,2013, 『最新住居学入門』実教出版.		

- - -

科目区分	人間科学科専門教育科目				
科目名	生活学概論				
担当教員	奥井 一幾 科目ナンバ・- H01010				
学期	前期/1st semester 曜日·時限 水曜2 配当学年 1 単位数 2.0				
授業のテー	人間の生活について総合的に学ぶ マ				
授業の概要	本講義は、人間の生活について、その変化のメカニズムや生活を捉える方法について知り、本学科で学ぶ上での基礎的な知見を得ることを目的とする。前半は、「生活学」や「家政学」の学問体系について概観し、現代の都市的生活様式がどのように形成されてきたかを知る。後半は、生活の中で重要な家計、生活時間、家事労働等について学び、現代生活の具体的特徴を知る。さらに、死別に伴う悲嘆について考えることから、一人の人間が誕生し、生涯を終えるまでの過程を学び、生活を総合的に捉える視点を養う。				
到達目標	(1) 生活学・家政学の成り立ちや現状について理解している【知識・理解】 (2) 個人のライフコースにおける諸課題が説明できる【知識・理解 / 態度・志向性】 (3) 現代の多様な生活課題に対して、自分なりの解決策が提案できる【汎用的技能】				
授業計画	第1回 生活学を学ぶ意義とこれまでの学びの振り返り 第2回 生活学・家政学の成立と変遷 第3回 戦後の生活変化と家族形態の変遷 第4回 生活と家族をめぐる社会的課題(人口動態、各種統計から) 第5回 生活と家族をめぐる身近な課題(生活・家族をめぐる具体的事例から) 第6回 ジェンダーとセクシャリティ 第7回 恋愛とパートナー選択 第8回 生活と生活自立 第9回 ライフイベントとライフプランニング 第10回 生活時間と女性の就業 第11回 消費生活と家計 第12回 情報社会と消費生活 第13回 加齢と高齢期の生活 第14回 死別と悲嘆				
授業外におり 学習(準備 ⁴ の内容・時	学習 授業後学習:授業内で指示したテーマや扱われた事柄について復習し、インターネットや図書館で関連する書籍				
授業方法	的に活 用する。				
評価基準。 評価方法	・ →到達目標(1)~(3)に対応 毎時間配付するワークシートの穴埋めはすべて埋めること。また、「本日の課題」は講義で扱われた専門用語や 教示内容を引用し、自らの考えを述べるように努めること。				
履修上の注	講義全体の2/3の出席が確認できない場合は原則として受講資格を失う。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。				
教科書	家政学のじかん編集委員会. 『育もう家政学-あなたの生活に寄り添う身近な学問-』. 2024. 開隆堂. (ISBN: 978-4304021985)				
参考書	適宜紹介する。				

_ _ _

科目区分	人間科学科専門教育科目						
科目名	生活行動論						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバー	H01040
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2. 0
	口党と注になける人の行動の心理学的子家						

学期	後期/2nd	semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2. 0	
授業のテー		日常生活における人の行動の心理学的考察							
授業の概		日常生活のさまざまな場面における人間の行動とその心理メカニズムについて理解することを目的とする。知覚 心理学、認知心理学、社会心理学、人間工学といった心理学と心理学関連領域の基礎的な概念を学ぶとともに、 な、食、住、ストレスや対人関係などの日常の生活行動を取り上げ、具体的な事例をとおしてそれらの心理 内な意味やメカニズムを考える。この講義をとおして人間の感覚と行動の関係について考える力を養うことが期 まできる。							
到達目標	. │ 2. 図表からわ	1. 実生活に関わる心理学の考え方、研究を説明できる。[知識・理解] 2. 図表からわかることを文章で表現できる。[汎用的技能] 3. 行動と科学の結びつきを自分の体験に照らし合わせて表現できる。[知識・理解][態度・志向性]							
授業計画	2. 感覚のと 3. 信 4. 集人知対 5. 知対人達憶知情 9. 記感知対人達 10. 速知 11. で 12. 以対 12. 以 13. 心理 14. 心理 14. 心理	5. 人格 【遠隔】 [PC必携] 6. 知覚-視覚- 【遠隔】 [PC必携] 7. 対人魅力 【遠隔】 [PC必携] 8. 発達 【遠隔】 [PC必携] 9. 記憶 【遠隔】 [PC必携] 10. 認知 【遠隔】 [PC必携] 11. 感情 【遠隔】 [PC必携] 12. 知覚-触覚- 【遠隔】 [PC必携] 13. 対人関係 【遠隔】 [PC必携] 14. 心理学の生活への応用 【対面】 [PC必携]							
授業外におり 学習(準備する) の内容・時間	授業前学習:授 する 授業後学習:授 学習	業で指示する資料で 業で指定された課題	を収集し、まと	とめる。(学習	g時間:2<時				
授業方法	│ 解説を行う回も │ manabaを利用し	おこなう。あるテ- ある。 小テストやアンケ- 〈BYOD対象科目〉				ンしたものを	発表し、それ	についての	
評価基準 評価方法	上 試験(50%):授第): 授業のなかで随 能で解説した内容に て評価する。到達日	ついて説明で	きるか、図表	から読み取っ	きの確認。 ○たことを表現	し、自分の	考えを展開	
履修上の注		席がないと、受講賞	資格を失う。和	払語厳禁とす <i>る</i>	5 .				
教科書	なし。適宜、資	料をmanabaに添付す	する。						
参考書	「美人は得をす 「皮膚感覚と人	に迫る―脳と視覚(るか 「顔」学入F 間のこころ」 新河 最大にするハーバ-	門」 集英社 朝社 ISBN:9	所書 ISBN: 9 78-4-10-6037	78-40872055 22-1	: 978-4062575 89 978-447979531			

- - -

_						
科目区分	人間科学科専門教育科目					
科目名	生活社会論					
担当教員	稲見 直子 科目ナンバ- H11230					
学期	後期/2nd semester 曜日·時限 月曜3 配当学年 1 単位数 2.0					
授業のテー	日常の<当たり前>を問い直す。					
授業の概						
到達目標	(1) 社会学の基礎的な理論や概念を修得できる。【知識・理解】 (2) データや映像に基づいて社会を読み解くことができる。【汎用的技能】 (3) 社会学的なものの見方や考え方に基づいて自分の考えを論理的に述べることができる。【汎用的技能】					
授業計画	第9回 メディアとプロパガンダ 第10回 メディアと現実 第11回 食卓の風景はいつでもどこでも同じ? 第12回 農業の工業化と市民運動 第13回 ファストファッションはなぜ安い? 第14回 グローバル化と消費社会 第15回 振り返りと期末テスト					
授業外にお 学習(準備: の内容・時	学習「時間>					
授業方法	基本的に講義形式をとるが、授業内ではワークシートの記入やグループディスカッションなども積極的に取り入れ、学生の主体的な参加を促す。					
評価基準 評価方法	・授業参加度 (45%) : 授業に主体的に取り組んでいるか、ワークシートにおいて分析的に書けているかなどを総合的に評価。到達目標 (1) (3) の確認。 ・期末レポート (15%) : 分析的かつ論理的に書けているか、決められた形式で書けているかなどを総合的に評価。到達目標 (1) (2) (3) の確認。 ・期末テスト (40%) : 授業で扱った専門用語の理解やデータの読み解きができているかを確認する。到達目標 (1) (2) (3) に基づいて評価する。					
履修上の注	・出席回数が全体の3分の2に満たない者は原則単位認定は行わない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とする。 ・授業中のスマホ操作・私語・居眠り禁止。注意しても改善されない場合は減点対象とする。					
教科書	授業内容に応じて、適宜レジメと資料を配布する。					
参考書	景山佳代子・白石真生編,2020,『自分でするDIY社会学』法律文化社.					

 科目区分
 人間科学科専門教育科目

 科目名
 生活統計学

担当教員	富田 因則	田 因則					
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2. 0
授業のテー		調査研究で収集したデータを集計・分析するために必要な統計学の知識を習得することを目的とする。					
授業の概	統計的データを集計・分析するために必要な統計学的知識を修得することを目的として、データの分布の概説からはじめ、基本統計量の算出方法、統計的検定の基本的な考え定に関する理論と技法、質的データの解析方法などに関する理論と技法の説明へつなげ識を基にして、実際に行われた調査結果あるいは調査資料を用いて、平均の検定、クロ数の算出、回帰分析などを行う。			方、さまざま る。さらに、	な検定と推 これらの知		
到達目榜	(1) 実験や調査で得られたデータについて平均・分散・標準偏差などの基本的な統計量の計算ができる。【別用的技能】 (2) 母集団と標本、標本抽出分布と生起確率などの統計的検定の考え方を理解し、データ分析に利用できる。 【汎用的技能】						
授業計画	第1回 実証的研究の方法第2回 実証的研究の方法第2回 変数と尺度第3回 間表値: 第4回 代表値: 第5回 世界 10回 母集 10回 母集統計・分 10回 標本統計・分 10回 標本統計・分 10回 標本統計・分 10回 標本統計・分 10回 東部 10回 平規分値の及同計10回 統計のの区間推定点におりがあると直線の関連の対象を表した。第12回 関連相関ラメトトの第13回 フェとめと達成度第15回 まためと達成度第15回 まためと達成度第15回 まためと達成度	最小値・中央値 分散・標準偏え 基本的な考える み検定 度 の差の検定	差				
授業外にお 学習(準備: の内容・時	⊉習 │	現できるよう	に復習する。				
授業方法	講義形式にコンピュータ操作による	る演習・実習る	を取り入れてヨ	実施する 。			
評価基準 評価方法					十量の算出及び	泲統計的解析 7	などのPCで
履修上の注	統計を使えることが大事。 意						
教科書	選定中。	選定中。					
参考書							

 科目区分
 人間科学科専門教育科目

 科目名
 生活統計学

 担当教員
 待田 昌二

 科目ナンバー
 H21070

担当教員 	待出	科目ナンハ -	H21070
学期	後期/2nd semester 曜日・時限 木曜4 配当学年 1	単位数	2. 0
授業のテー	調査で収集したデータを集計・分析するために必要な、基礎的な統計学の知識を習得とする。	することを目的]
授業の概	統計的データを集計・分析するために必要な、基礎的な統計学的知識を修得すること 変数と尺度、データの分布の概説からはじめ、基本統計量の算出方法、統計的検定の な検定と推定に関する理論と技法、質的データの解析方法などに関する理論と技法の これらの知識を基にして、実際に行われた調査結果あるいは調査資料を用いて、平均 定、相関係数の算出、回帰分析などを行う。全ての授業を通じて、豊富な実例を取り 説を心がける。	基本的な考え方 説明へつなげる の検定、クロス	i、さまざま 。さらに、 集計表の検
到達目標	(1) 実験や調査で得られたデータについて平均・分散・標準偏差などの基本的な統計 用的技能】 (2) 母集団と標本、標本抽出分布と生起確率などの統計的検定の考え方を理解し、う 【汎用的技能】		
授業計画	全ての授業回で [PC必携] 第1回 実証的研究の方法 第2回 変数と尺度 第3回 調査データの集計とグラフ化 第4回 代表値:平均値・最大値・最小値・中央値・最頻値 第5回 散布度:範囲・四分領域・分散・標準偏差 第6回 母集団と標本 第7回 標本統計・クロス集計結果の検定 第9回 正規分布と相対的位置の測度 第10回 平均値の区間推定と平均値の差の検定 第11回 統計的検定の注意点 第12回 関連のある二標本における平均値の差の検定 第13回 直線相関と直線回帰 第14回 ノンパラメトリック検定 第15回 まとめと達成度確認試験		
授業外におり 学習(準備なの内容・時間の内容・時間の内容・時間の内容・時間の内容・時間の内容・時間の内容・時間の内容・時間の内容・時間の内容・時間の内容・時間の内容・時間の内容・時間の内容・対象の内容・体の内容・対象の内容・体を対象の内容・対象の内容・対象の内容・対象の内容・対象の内容・対象の内容・対象の内容・対象の内容・対象の内容・対象の内容・対象の内容・対象の内容・対象の内容・対象の内容・対象の内容・対象の内容・体をとなるの内容・対象の内容・対象の内容・体をとなるのの内容・体をとなるのの内容・体をとなるののとなるののとなるののとなるのとなるのとなるのとなるのとなるのとなるのと	学習 問題に結び付けて考える(学習時間<3時間>)	せるよう復習	し、身近な
授業方法	主に講義形式だが、コンピュータ操作による演習・実習を取り入れて実施する。 <by< td=""><td>OD対象科目></td><td></td></by<>	OD対象科目>	
評価基準。 評価方法			
履修上の注	スマートフォンの電源オフなど授業マナーを守ること。		
教科書	なし。適宜、プリントを配布する。		
参考書	「心理・教育のための統計法 第3版」サイエンス社 ISBN:978-4-7819-1235-6		

- - -

科目区分	人間科学科専門教育科目						
科目名	生活福祉論						
担当教員	奥井 一幾 科目ナンバー H12170						
学期	後期/2nd semester 曜日·時限 水曜2 配当学年 1 単位数 2.0						
授業のテー	生活福祉と社会生活における様々な事象との関わりから、生活福祉の意義や役割について学ぶ。						
授業の概	フスタイルを持った個人と家族にとって、ライフコースのそれぞれの時点での支援を考え、生活福祉の観点から 課題解決に必要とされる知識および方法・技能を総合的に学ぶ。						
到達目標	(1) 現代の生活福祉における諸問題を理解し、その概要を説明することができる【知識・理解】 (2) それらの諸問題に対して、専門用語を用いながら自らの考えや解決策を述べることができる【汎用的技能、 態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス(講義形態の確認と生活福祉を「学ぶ」意義) 第2回 生活福祉の定義をもとめて 第3回 健康な生活習慣と生活福祉 第4回 生活福祉を支えるコミュニケーション 第56回 公共と生活福祉 第7回 集団心理と生活福祉 第8回 ストレスと生活福祉 ※ゲストスピーカーによる講義 第9回 社会保障と生活福祉 第11回 援助行動と生活福祉 第11回 人間の尊厳を考える 第12回 メディアと生活福祉 第13回 いのちと生活福祉 第14回 自らの生活福祉 第14回 自らの生活福祉 第14回 終講課題と質疑応答						
授業外にお 学習(準備: の内容・時	学習 愛を行うことが望ましい。<2時間>						
授業方法	講義:松蔭manabaを積極的に活用する(資料公開、レポート提出など)。 本講義はアクティブラーニング(グループワーク、ペアワーク、ディスカッション等)を積極的に取り入れる。						
評価基準 評価方法							
履修上の注	講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。						
教科書	必要に応じて資料を配付する。						
参考書	必要に応じて講義内で紹介する。						

 科目区分
 人間科学科専門教育科目

 科目名
 調理科学実験

 担当教員
 長尾 綾子

 学期
 後期/2nd semester
 曜日・時限
 火曜3~4
 配当学年
 1
 単位数
 1.0

担当教員	長尾を綾子	科目ナンバ-	H21150				
学期	後期/2nd semester 曜日·時限 火曜3~4 配当学年 1	単位数	1. 0				
授業のテー	調理操作に対する興味・関心をもち、調理科学的な視点を培う。また、実験を通して調業者ける。 7	理の基礎的な	技術を身に				
授業の概要	調理の基礎技術を理解するために必要な実験を行う。 加熱方法や加熱時間による食材の変化、切り方の違いによる味の浸透の差異、材料配合などを実験を通して学習する。	│ 加熱方法や加熱時間による食材の変化、切り方の違いによる味の浸透の差異、材料配合変化による調理への影響					
到達目標	(1) 調理操作が食品に及ぼす影響を理解し、説明できる【知識・理解】 (2) 計量をはじめとする基礎的な調理操作を正しく行うことができる【汎用的技能】 (3) 調理操作による物理的・化学的な影響を踏まえて調理に臨むことができる【態度・	(1) 調理操作が食品に及ぼす影響を理解し、説明できる【知識・理解】 (2) 計量をはじめとする基礎的な調理操作を正しく行うことができる【汎用的技能】 (3) 調理操作による物理的・化学的な影響を踏まえて調理に臨むことができる【態度・志向性】					
授業計画	第1回 諸注意その他、計量(調味料) 第2回 味覚の実験(閾値、味の相互作用、官能評価) 第3回 野菜・果物・いもの実験①(食品の下処理と廃棄率) 第4回 野菜・果物・いもの実験②(食品の変色と防止法、褐変防止方法の効果の確認 第5回 加熱操作に関する実験(大根の煮え方) 第6回 米の実験 炊飯工程と米の糊化条件の確認、米の組成と粘りの関係 第7回 実験結果プレゼンテーション・考察〈第2回から6回までの実験結果のまとめ・ 第8回 だし汁の実験(相乗効果、だし素材、浸漬・加熱方法による食味の違い) 第9回 だし汁の実験(調乗、たし素材、浸漬・加熱方法による食味の違い) 第9回 がル化剤の実験(調・セント・カラギーナンの特性に及ぼす副材料の影響 第11回 卵の実験(卵液希釈度・調味料の量や食味への影響) 第11回 卵の実験(外科の配合割合がクッキーに及ぼす影響) 第12回 小麦粉の実験(材料の配合割合がクッキーに及ぼす影響) 第13回 肉・魚介の実験(ハンバーグステーキと副材料の役割) 第14回 牛乳の実験、砂糖の実験 第15回 実験結果プレゼンテーション・考察〈第8回から14回までの実験結果のまとめ・	班による発表)					
授業外におり 学習(準備: の内容・時間	習 授業前進備学習・実験内容に目をとおしておく、で学習時間・30分>		一トの提出				
授業方法	実験:実験内容説明後、グループごとに実験を行い、データ整理、結果についてのディー各自、実験記録をもとにレポートを作成し、松蔭manabaに提出する。 プレゼンテーション:第9回と第15回にグループごとのプレゼンテーションを行い、要点						
評価基準 評価方法	授業態度(実験、発表への取り組み)50%、レポート(実験ノートを含む)50% 授業態度:実験の取り組み、グループ作業への参加度、グループ発表の内容より、総合 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 レポート:実験結果をもとにレポートが作成できているか、実験記録、結果、考察を総 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認。 フィードバックの方法;授業時および松蔭manabaにて対応する。						
履修上の注	「調理学」を履修していることが望ましい。 実験内容を把握し、実験に適した身支度をした上で臨むこと。(実験用白衣を着用:各自 実験室へは許可された物のみ持ち込みを可能とする。 実験のため全回出席を原則とし、出席回数が開講日の2/3に満たないものには、原則単位 20分以上遅刻の場合は欠席とする。 提出物は提出期限厳守。実験後のレポート提出を以ってその回を受講したこととする。		ない。				
教科書	『Nブックス実験シリーズ 調理科学実験』第2版、長尾綾子・香西みどり編著、建帛社、 ISBN 978-4-7679-0623-2						
参考書	『調理学』、(公社) 日本フードスペシャリスト協会編、建帛社、ISBN 978-4-7679-057 『NEW 調理と理論』、山崎清子・島田キミエ・渋川祥子・下村道子・市川朝子・杉山ク ISBN 978-4-8103-1395-6	24-2 (仁子著、同2	文書院、				

 科目区分
 人間科学科専門教育科目

 科目名
 調理学

 担当教員
 升井 洋至

 学期
 前期/1st semester
 曜日・時限
 月曜4
 配当学年
 1
 単位数
 2.0

担当教員 	升井 洋全	50						
学期	前期/1st semester 曜日・時限 月曜4 配当学年 1 単位数 2.0							
調理について理解し、調理をするために必要な知識を学び、修得する。 授業のテーマ								
授業の概要	人が健康を維持するためには、適切に食事を摂らなければならない。食事は、単にタンパク質、炭水化物、油脂等を摂るだけでなく、「適切に、おいしく」摂る必要がある。このためには、食材の特性を理解し、適切な調理方法を行うことが求められる。嗜好的に好まれる=おいしく食べるために、調理学では、調理をするために必要な知識として、食事設計の基本知識、食素材の調理性、調理操作による組織または物性と栄養成分の変化などを学ぶ。							
到達目標	【知識・理解】							
授業計画	第1回 おいしさの設計—①調理の意義、②食べ物の嗜好性第2回 おいしさの設計—③おいしさの演出第3回 おいしさの設計→④食事設計第4回 調理操作—非熱操作と器具第5回 調理操作—加熱操作と器具第6回 調理操作—熱源の種類と加熱機器・器具第7回 食品素材の調理特性—炭水化物を多く含む食品の調理性(確認試験)第8回 食品素材の調理特性—だんぱく質を多く含む食品の調理性第9回 食品素材の調理特性—だりまと、無機質を多く含む食品の調理性第11回 食品素材の調理特性—成分抽出素材の利用と調理性第11回 調理と食品開発—調理と接食機能(確認試験)第12回 調理と食品開発—調理と接食機能(確認試験)第13回 調理と食品開発—調理から加工への展開第13回 調理と食品開発—調理から加工への展開第14回 調理と食品開発—消費と流通への展開第15回 授業内容のまとめ第16回 期末試験							
授業外におり 学習(準備型の内容・時間	授業前準備学習:講義テーマについて、教科書による予習(学習時間2時間) 授業後学習;講義内容について、要点整理、確認テストによる理解度の確認(学習時間2時間)							
授業方法	対面講義形態で行う。講義では教科書をもとにパワーポイント等で解説する。調理操作や食品素材の変化について具体的に説明をする。							
評価基準。評価方法	期末試験 60%:授業内容全般についての理解度、興味関心の有無について評価する。 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 レポート課題20% 確認試験 20%:2回実施							
履修上の注	日常生活で「調理する」ことについて、興味、関心をもって、講義の予習、復習を行うこと。 食べたものが、どのように調理され、提供されているかを考えてください。 出席回数が開講回数の3分の2に満たない場合、原則単位認定は行わない。 遅刻、早退30分以上は欠席とする。							
教科書	『調理学 第2版』 (公社)日本フードスペシャリスト協会編、建帛社 ISBN: 9784767906560							
参考書	『調理学 第2版』、渕上倫子編著、朝倉書店、ISBN978-4-254-61650-7 『NEW 調理と理論 第二版』、山崎清子・島田キミエ・渋川祥子・下村道子・市川朝子・杉山久仁子著、同文書院、ISBN 978-4-8103-1507-3 『コツと科学の調理事典 第3版』、河野友美著、医歯薬出版、ISBN978-4-263-70264-2 映像で学ぶ『調理の基礎とサイエンス』、松崎政三・藤井恵子・寺本あい編著、学際企画、ISBN 978-4-8103-13 95-6							

No. 208580186 2 / 2

参考書

『たのしい調理—基礎と実習—』第5版、山内知子他著、医師薬出版株式会社、ISBN 978-4-263-70653-4

_								
科目区分	· 人間科学科専門教育科目							
科目名	名 都市生活論							
担当教員	江 弘毅	エ 弘毅 科目ナンバー H01050						
学期	後期/2nd	semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2. 0
授業のテー	現在進行形の都市生活から「まち」「都市」「都会」とはなにかを概観し、具体的な都市を読み解く。 授業のテーマ							
授業の概要	み解く」ことで 生活の課題や原 後半は、都市の インターネッ	に関心をもってもらえりを主眼についてもらえりを と主眼について考えての と話の基底、すなわな とと変貌する都市空間 とと匿名性などから) 立ちも含め) く。 ら高度に発達 引、消費社会。	たハード面や、 した情報シスラ と欲望、資本制	都市生活上 テムを軸とし 引と価値、貨	のソフト面を たメディアと 幣および交換	子解説し、これ : 情報リテラシ !・贈与、公共	からの都市 一の問題、
到達目標	. 📗 (2) 高度情報	在の都市生活を知り 化社会の中の「まち」 くり」に参画するこ	」を情報化、	記述し、都市	情報を発信す	ことができる。 することができ	。【知識・理角 きる。【知識・	ቾ】 ・理解】
授業計画	第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第	本ををといって、 「とちまな」ともませる。 「一、大都会広といって居り、 一、大都会広といって居り、 一、大都会広といって居り、 一、大都会広といって居り、 一、大都会広といって居り、 一、大都会広といって居り、 一、大都会広といって居り、 一、大都会広といってに、 こままな」だされる。 で123 で12	50.5.7 という (1.5.5.5.5.7 という (1.5.5.5.5.5.7 という (1.5.5.5.5.5.5.7 という (1.5.5.5.5.5.5.5.5.5.5.5.5.5.5.5.5.5.5.5	り口。何から記 」から読み解く 南船場・堀江・ た 間 名性	売み解くか く→中間試験	i	こスト・乙仲通	りを例に
授業外におり 学習(準備 の内容・時間	授業前準備学習 する 習時間90分) 学習 授業後学習: 7	習:あらかじめ授業計 まち(例えば神戸や自 て理解すること(学習	目分の居住地)	についての具				
授業方法	それをもとに持 毎回授業が終れ くテーマや字数	こmanabaのコースコン 受業を進めます。 つると、リアクション 故は毎回指示します) 受業のプラットフォー 目〉	ノペーパーが 。	わりの「レポー				ださい(書
評価基準 評価方法	_ '	k試験50%。 ₹クションペーパー30	0%、質問応行	答(コール&し	ノスポンス)	、授業中の発	表発言20%	
履修上の注	出度が授業回	構義をするので、ノー 枚の3分の2に満たなし						
教科書	その都度、mar	abaのコースコンテン	/ツなどを通	じて資料を用意	意します。			
参考書	5 『「街的」とし 『街場の大阪 『広告都市・『 『アメリカ大社 『愛するとい・ 794807430	『「街的」ということ お好み焼き屋は街の学校だ』、江 弘毅著、講談社現代新書 ISBN-10: 4061498568 『街場の大阪論』江 弘毅著、バジリコ ISBN-10: 4862381316、新潮文庫 ISBN-10: 4101319219 『広告都市・東京 その誕生と死』北田暁大著、廣済堂出版 ISBN-10: 433185017X 『アメリカ大都市の死と生』、ジェーン・ジェコブス著、鹿島出版会 ISBN-10: 4306051188 『愛するということ「自分」を、そして「われわれ」を』ベルナール・スティグレール著、新評論 ISBN-10: 4						

2025年度 神戸松蔭女子学院大学 シラバス

No. 209640568 2 / 2

参考書	

科目区分 人間科学科専門教育科目 人間科学基礎 | / 生活の科学基礎 | 科目名 亀井 健吾 H01020 担当数員 科目ナンバー 学期 前期/1st semester 曜日・時限 月曜1 配当学年 1 単位数 2.0 高等学校まで学んできた科学的知識(化学・生物分野)が身近なところに活かされていることを知るとともに、 これから大学で学ぶ上で必要な化学・生物の知識を身につける。 授業のテーマ 生活科学とは、人々の生活に関するあらゆる事象を科学的に解明し、生活の質を向上させることを目的とする学問である。本授業では、生活科学を学ぶ上で必要不可欠な化学や生物学の基礎知識を習得する。また、科学技術の進展によって多様化した現代の生活において、人間と科学との関係性を理解し、社会が抱える課題を科学的に 授業の概要 解決するための土台となる力を養う。 (1)生活の中の現象やヒトの体内での現象を科学的な視点で説明することができる。【知識・理解】 (2)科学的視点によって、技術の改良・改善や効率的な利用方法の提言、あるいはより良い社会システムの提案を行うことができる。【態度・志向性】 到達日標 (3)化学と生物学が生活に役立てられることを理解する。【汎用的技能】 第1回 オリエンテーションと生活の中の化学や生物学について (第2~7回 化学分野、第8回~14回 生物分野を予定) 原子、分子、元素とイオン(塩) 無機化合物 I 第2回 第3回 第4回 無機化合物 Ⅱ 化学結合と化学反応・物質量「モル」 第5回 第6回 有機化合物 I 有機化合物 Ⅱ 第7回 授業計画 生物とその構成成分 第8回 第9回 生物の代謝・遺伝子 第10回 生物の体内環境 I 第11回 生物の体内環境 II 第12回 植物 第13回 動物 生態と環境 第14回 第15回 総括 授業前学習: 高校化学、生物を復習し、教科書を予習する。<1.5~2時間> 授業後学習: 教科書を用いて講義内容を復習し、自身の意見、質問などをまとめて文章にし、課題として提出す 授業外における 学習(準備学習 る。<1~2時間> の内容・時間) 講義 manaba課題(授業内でテーマを伝え、各自の意見をまとめたものを提出:化学分野4回・生物分野4回) 授業方法 講義ごとの課題提出80% (manabaを用いた課題提出・理解度確認) 授業態度20% (積極的な質問など) 課題について、インターネット上の内容を参考にする際は、参考文献元として信頼性の高いものであれば利用可能とする。ただし、コピーペーストを行わず、自身の考えを踏まえて文章を作成すること。また、参考としたものは必ず課題の末尾に記載すること。これらも評価対象として確認する。生成系AIの使用が明らかな場合、減点 評価基準と 評価方法 対象として評価する。 20分未満の不在(遅刻・早退等)は、1/3回の欠席とみなす。また20分以上不在の場合は、欠席扱いとする(交通機関遅延などの事情がある場合は考慮する)。 出席回数が開講回数の2/3に満たない者は、原則として単位認定を行わない。 履修上の注意 SBクリエイティブ 一度読んだら絶対に忘れない化学の教科書 左巻 健男 (著) ISBN-13: 978-481561747 教科書 KADOKAWA 大人の教養 面白いほどわかる生物 伊藤和修(著) ISBN-13: 978-4046059468 科学関連のニュースなどを日常的に確認する。 他は授業内で伝達する。 参考書

科目区分 人間科学科専門教育科目 科目名 人間科学基礎Ⅱ/生活の科学基礎Ⅱ 青谷今井奥井川口富田花田 H01030 担当数員 科目ナンバー 学期 前期/1st semester 曜日・時限 水曜1 配当学年 1 単位数 2.0 社会生活の中で生活者はどのように行動し、どのような役いくために必要となる基礎知識と現実問題について学ぶ。 社会生活の中で生活者はどのように行動し どのような役割を果たしているのか。より豊かな社会生活を営んで 授業のテーマ 生活・社会科学の視点から現代社会の実態や諸課題を明らかにするとともに、いかにしてこれらを生活の豊かさ 生活の質の向上に結びつけるかについて考える。さらに、理論と実践の両側面からの学びを通じて、生活上 授業の概要 の諸問題の解決策を探究する力を養う。 (1) 人間生活を生活・社会科学の枠組みで捉え、基礎的な知識を理解することができる【知識・理解】 (2) 社会の中でより豊かに生活を営むための手立てについて考えることができる【汎用的技能】 (3) 人間生活における諸課題について、生活・社会科学の枠組みで捉え、それらの解決を主体的に探究しようと 到達目標 している【態度・志向性】 ガイダンス:人間科学の定義を求めて 【奥井】 [PC必 人間科学の理論①:人間環境入門【花田】 人間科学の理論②:人間環境入門【花田】 [PC必携] 人間科学の理論②:食生活入門【川口】 人間科学の理論③:地域・観光入門【青谷】 [PC必携] 人間科学の理論③:地域・観光入門【青谷】 [PC必携] 人間科学の理論④:自然環境入門【富田】 人間科学の理論④:自然環境入門【富田】 人間科学の理論④:自然環境入門【富田】 [PC必携] 人間科学の理論④:経営入門【今井】 人間科学の実践⑤:経営入門【今井】 [PC必携] 人間科学の理論⑥:社会調査入門【奥井】 【奥井】〔PC必携〕 第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 笙8回 授業計画 第9回 第10回 第11回 人間科子の実践》: 社会調査入門【奥井】 人間科学の理論⑥: 社会調査入門【奥井】 人間科学の実践⑥: 社会調査入門【奥井】 人間生活を総合的に捉える視点【奥井】 講義の総括と終講課題【奥井】 [PC必携] 第12回 [PC必携] 第13回 [PC必携] 第14回 第15回 授業前学習:各回の授業で取り上げる内容とキーワードに関係する文献を図書館およびwebで見つけて、読み込むこと<学習時間:2時間> 投業後学習:授業内で指定した課題についてレポートを作成し、各担当者が指定する方法(主に松蔭manaba)で提出すること<学習時間:2時間> 授業外における学習(準備学習 の内容・時間) 講義:都市生活学科の諸領域について、各専門分野の教員が入門的な学びを理論と実践の両側面から提供する。 学習活動は一斉授業をベースに、部分的にペア・グループワーク、ディスカッション、ゲーム、ロールプレイな 授業方法 どを取り入れる。<BYOD対象科目> ・各担当者が課すミニレポート(90%):第2~13回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)~(3)の達成度を確認する。 評価基準と ・平常点および終講課題(10%):第1、14、15回の取り組み状況によって到達目標(1)の達成度を確認する。 評価方法 ・出席が授業全体の2/3以上であること ・原則として、学校感染症や公共交通機関の遅延・運休といったやむをえない事情により遅刻・欠席した時、各種証明の提出があった場合に限り考慮の対象とする ・本科目は複数の教員が担当するオムニバス形式の授業であることから、授業について不明な点や質問があった 履修上の注意 場合には担当者に直接伝えるこ 休補講時の対応については各担当教員の指示に従うこと 必要に応じて資料を配付する 教科書 必要に応じて紹介する 参考書